

学校名	新座市立第二中学校
実施日	平成29年1月26日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を重視するとともに、知識・技能の活用を図る学習活動の工夫やICTの活用など指導方法の改善に取り組んでいる。	B	研修テーマにアクティブ・ラーニングを位置づけ、全教科でのICT教材の活用や主体的な活動を大幅に取り入れるなど、組織的に指導方法の改善に取り組んだ。さらに3年間を見通した指導方法の研究やICT環境の整備を進める。	A	来たるグローバル化社会に対応する人材を育てるため、アクティブ・ラーニングの手法を全教科で取り入れ、先進的な指導方法に挑戦しているなど授業改善に向け努力している。今後はハード面の充実と指導方法の研究を中心にさらなる改善を期待する。
2	学校は、授業において個に応じて指導を充実することでわかる喜びを実感させたり、学習内容や学習活動の工夫により学習意欲を高める授業改善や学習環境の整備に取り組んでいる。	B	導入の仕方や本時のねらいの表現を見直し、生徒の学習意欲を知的好奇心から喚起する工夫により生徒の授業への集中力が高まった。また、学習指導案の形式を見直し、「支援を要する生徒への手立て」を展開の中に明記し、理解に時間を要する生徒への個別の対応を意識した授業を構築できた。	A	授業で生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起する学習内容や学習指導を積極的に取り入れており、集中度の高い授業を展開するなど改善に取り組んでいる。その結果が、埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査に数値となって表れている。また、個別の生徒に対する支援を毎時間記録し蓄積するなど、生徒一人一人の特性への対応を意識している。
3	学校は、学力向上プランに基づいて言語活動を各教科等の特質に応じて工夫し、充実させ、生徒の思考力、判断力、表現力をはぐくむ授業改善に取り組んでいる。	B	学力向上の重点である「言語活動の充実」を具現化するために各教科等で研修を進めた。知識構成型ジグソー法など、新たな授業展開に積極的に挑戦している。来年度の本発表に向け、課題研修部が中心となって組織的に授業改善に取り組んでいる。	A	各教科が言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力をはぐくむための具体的な方策を学力向上プランに取り入れるとともに、校内研修を通して「アクティブ・ラーニング」の視点に基づいた授業改善を図っている。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	教務主任、学年主任、生徒指導主任、保健主事のリーダーシップの下、3年間を見通した発達段階に応じた学年目標を実現するための学級経営ができています。分掌部会を学期末に実施し、若手教員のアイデアを入れながら来年度に向けての見直しが前向きに進んでいる。	A	教育相談や生徒指導の定例の情報交換だけでなく、各分掌の主任が中心となって学校課題を明確にし、課題解決に向けて組織的に取り組む体制づくりを強化することが望まれる。ミドルリーダーが成長し、組織的に校務に取り組む中心になるなど、人材育成も進んでいる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる「目指す学校像」に関連させながら、各教職員が目標を立て、高い意識で実践を重ねている。教科部会を学期末に実施し、成果と課題の確認を行って次年度への改善を確実にものにしたい。	B	新座市の学校評価システムの結果の分析、学校独自の生徒と保護者へのアンケート結果の分析から具体的な方策のもとに教職員が積極的に学校経営に参画し、さらに学校力を高めることが望まれる。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるように、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	安全指導部を中心に、学期に1回首都直下型地震及び火災を想定した避難訓練を実施し、災害時に対応できる体制を整えている。夏季休業中には避難所開設訓練を校区内の小学校と合同で実施し、災害に対する意識を高めた。	B	危機管理マニュアルが整えられ、心肺蘇生(AED)の研修やエビデンの講習会などに積極的に取り組んでいる。各階段の各階には緊急時の対応カードを常備し、生徒でも緊急連絡ができる体制ができています。地域の防災訓練への生徒の参加、夏季研修での避難所立ち上げ訓練など、緊急対応できる体制づくりがなされている。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	「二中授業7ヶ条」を掲示し指導の徹底を図ることで、どの教科も落ち着いて授業がスタートしている。授業規律の中でアクティブ・ラーニングの視点から適切に表現するなどメリハリある授業を展開している。	B	学校独自の授業規律である二中授業七ヶ条が定着しており、生徒が落ち着いて授業に取り組んでいる。学習内容の理解を深めるための工夫がなされている。生徒のルール定着のために、教職員も時間や期限を徹底して守るよう期待する。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	学力向上プランに言語活動の充実を明記し、計画的な指導を展開している。昨年までの研究成果を活用し、個に応じた主体的な学びにつなげられるよう工夫を続けていく。	A	引き続き「言語活動の充実」を図るとともに、来年度の本発表に向け「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業改善の研究」が具体的に進められており、「アクティブ・ラーニング」の手法を意識し、個に応じた学びを授業が実践されている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	授業の導入で本時のねらいを明記し、学習のながれを理解させた状態で進めるようにした。また、個別指導と一斉指導の特性を生かし、基礎基本の定着と協働学習、表現とのバランスを考慮し、応用・発展的な内容にも挑戦できるよう工夫している。	A	授業の導入で「本時のねらい」を明記して学習の見通しをたてさせ、生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を実践している。埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果からも、成果が上がっていることが見て取れる。これらの調査結果を分析し、さらなる学力向上への取り組みを期待する。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	英語では、JETとALTの連携を密にし、オールイングリッシュで授業を展開する時間が多く、自ら進んで表現できる生徒が増えている。異文化交流に取り組み、国際理解教育への興味、関心が高められている。	A	ALTとのチーム・ティーチングやオールイングリッシュの指導など、先進的で英語の活用を重視した状況を設定することによって実用的な英語指導が実践されている。英語力診断テストでは聞く力、読む力共に伸びが見られることから実用的指導にさらに期待する。異文化交流に取り組み、国際理解教育にも力を傾注している。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導し、成果をあげている。	B	TPOに応じた振る舞いができていないときは、その場で指導するように全教職員が心がけているが、徹底できていない部分がある。校外では「よくあいさつする」「あいさつできていない」双方の評価があり、教職員が率先して見本となり、いっそう言語環境の整備に努める。	B	あいさつの徹底も重要であるが、場に応じた言葉遣いができるよう言語環境を整えたり教員自身が言葉遣いを意識したりする指導を教室だけでなく、すべての教育活動で意図的に指導する等、場に応じた言葉遣いができる生徒の育成を図ることを期待する。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	いじめに対して「必ず守る」意志を強調していることもあり、認知と対処が迅速にできている例が多い。ネット上も含め潜在化しているいじめもあり、正義が通る集団づくりの工夫に努める。生活アンケートの実施や教育相談、生徒指導の両部会の情報発信を通して小さなことでも全教職員で共有し、組織的にいじめの撲滅を図っている。	A	いじめはどの生徒、どの学校にも起こるものと捉え、いじめを「許さない」「必ず守る」意志を生徒に伝え、情報を把握しやすい状況を作り、早期発見・早期解決につなげている。また、道徳教育を通して道徳的実践能力や態度を育成し、教員がいじめに対する鋭い感性を持って教育活動に組織として取り組んでいる。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	教師自ら時間を守るなど、ルールを遵守する意味を理解させながら指導している。保護者アンケートで指摘されているように、言語環境や時間、服装への意識を高め、当事者意識を持って自らを律するよう研修を重ねていく。	B	教師集団は率先垂範できるよう、当事者意識を常に持つよう校長のリーダーシップのもと、研修を重ねている。生徒が第一の意識を持ち、言葉、時間、服装等について高い意識を持って職務を遂行していくよう期待する。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	保健体育科を中心に、体力テストの上位を掲示したり昼休みの運動を推進するなど体力向上に努めている。部活動では各顧問の指導の下、高い目標を持って熱心に参加し心技体の向上に取り組んでいる。	A	保健体育科を中心に運動の楽しさを味わえるよう指導し、昼休みも多くの生徒が率先して体を動かしている。運動部活動では生徒が主体的に活動に取り組む姿勢を各顧問の熱心な指導のもと、体力・技術の向上が図られている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	給食委員会と栄養職員が中心となり、食育の充実に取り組んでいる。部活動で「おべんとうコンクール」県優秀賞を獲得するなど、食への意識を高めている。今後は地場産食材の活用をさらにアピールしたい。	A	栄養職員の指導のもと、給食指導を学級経営の土台とし、食に対する意識を高めており、献立に地場産の野菜を多く取り入れたり、郷土料理を取り入れるなどの工夫がなされている。生活についての調査で朝食の喫食率が全国平均よりも高い。今後は地域に向けての情報発信や試食会等を考えていく。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、PTA活動や地域活動に関心をもち、保護者・地域と連携協力している。	A	恒例の二中フェスタを筆頭に、花植え、あいさつ運動、パトロール、講演会、部活体験等のPTA活動が非常に活発かつ協力的で、教職員も積極的に参加するなど保護者・地域とふれあう機会の確保に努め、そうした場に出される要望や情報を今後の指導に活用している。	A	PTAと学校が連携し、あいさつ運動・下校の見守り・花壇の整備・野火止クリーンキャンペーンへの参加等、積極的な活動が実践されている。二中フェスタは参加者が増加し、学校・保護者・地域との交流を深める行事となっている。PTAの積極的な活動に、より教職員が参加できるよう工夫していく。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	新座二中だより、学年・学級通信、保健・給食だよりを計画的に発行し、町内会等地域の方々へも配布し、学校公開等の機会に來校される地域の方が増加した。ホームページの更新もPC操作補佐員の協力の下、毎週更新している。	A	学校だよりやホームページの毎週の更新によって、学校の教育活動の様子を随時発信するとともに、校内の掲示物で生徒の活動の様子がよくわかる。今後は提供された情報、特に配布物が生徒止まりにならず、保護者・地域に伝達できるよう工夫していく。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	ふれあい地域連絡協議会・PTAを中心とした「心の声かけ運動」、読み聞かせ、下校パトロール、地域の見回り等に計画的に取り組んだ。不審者対策は情報発信の仕方を工夫し、被害が出ないよう注意喚起するとともに生徒の自衛意識も高めた。	A	おはなしの車による「読み聞かせ」が定着しており、中学校だけでなく小学校の保護者が來校し、学校の様子を実際に見る良い機会となっている。ふれあい連絡協議会による毎月1日のあいさつ運動、心の声かけ運動がPTAのあいさつ運動とともに毎朝のスタートを元気にしている。不審者対策について、情報発信の仕方をより防犯効果の高い形に工夫していく。